



取材時に店を訪れていた難波さん、吉田さん、宮腰さん。三人とも秋山ニットでオーダーしたセーターを着用。化学繊維は使用せず、天然素材のウール100%とオーガニックコットン100%にこだわっているのも秋山ニットの特徴だ。

ひとりのお客様の体に合うニットをお届けしたいと思いましたが（貞義さん）
編み立てから縫製まですべての工程を夫婦で行う丁寧な仕事ぶりが評判を呼び、徐々に口コミで顧客が増えていった。



世界に一着しかないニット。

東武スカイツリーラインのノ割駅から5分ほど歩いた場所にある「秋山ニット」は、夫婦二人だけで“世界に一着しかないニット”を製造販売しているオーダーニットの専門店だ。大量生産の既製服が主流となった時代に、お二人が今も“手仕事”にこだわり続ける理由とは？

訪れたお客様の姿勢や体形を見て、背中丸い人の場合は、後ろ身頃を長めにするなど、それぞれの体形に合った工夫を凝らしてくれるのもこの店ならではの。最近は色やデザイン、サイズにこだわらなくても、高齢者向けに脱ぎ着しやすいものを作ってもらいたい、というような、特別なオーダーも増えているという。
「先日は介護施設で暮らすお母さんのワンピースを作ってもらいたいという注文がありました。車椅子に座ってもずりあがらないように裾を少し重くしたり、後ろから介護の人が名前

どんな細かいリクエストにも応じられるのが強み

「オーダーメイドというが高価なイメージがありますが、流通経費を省いて、良質なものを少しでも安く提供することにこだわったのがよかったのかもしれない」
価格は一般のオーダーメイド店の半額程度。こんなに安く利益は出るのだろうか？
「欲をかかなければ今の価格でも十分やっていけるんです。決して儲かる仕事とはいえないけど、お客様が編み上がった服を着て微笑んでくれる姿を見るのがうれしくてね。今となっては商売というより完全に趣味の世界ですね」

良質なものを手頃な価格で提供すれば需要はあるはず

秋山ニットの昭和44年創業のニット工房。現在は秋山貞義さん、かず子さんご夫婦だけでオーダーニットの製造販売を行っているが、かつては10人の従業員を抱え、大手衣料メーカーから依頼された縫製を中心に請け負っていたという。

「20年ほど前から生産拠点を中国に移す企業が増えて、急に仕事が減り始めたときに、この先は思い切った事業を縮小し、かねてからやりたかったオーダーメイドスタイルのニット店を二人で始めてみようと考えました。新しく横編機を購入し、今まで培ってきた技術を生かして、一人

お金儲けよりもお客様の笑顔が生き甲斐なんです



生涯現役を目指してずっと二人三脚でがんばらなきゃね！

採寸・型紙・縫製担当
あきやま 秋山 かず子さん

カラー・編み立て担当
あきやま さだよし 秋山 貞義さん



編み上がった生地アイロンがけと裁断・縫製はかずさんが担当。縫製工場に勤めていた20代の頃、ニット商品を納める仕事をしていた貞義さんと出会ったのが二人のなれそめ。昨年、金婚式を迎えた。



300色以上の糸の中から縦糸と横糸を選びだし、お客様のイメージする色を再現していく貞義さん。柄物を作る場合は、細かい計算をしながら編み機のコンピューターにパターンを打ち込んでいく。